

# 教宣 せぶん

## 旧指導者の「大義」

組合分裂前の、分会再編される以前の、私の出身分会の活動を思い起こしてみると、〔1月〕新年会・組合学校（宿泊）〔2月〕支部オルグへの参加〔3月〕分会臨時総会・懇親会（宿泊）〔4月〕春闘決起ソフトボール大会〔5月〕メーデー/A集会〔7月〕議案書作り（宿泊）〔8月〕分会定期総会・懇親会（宿泊）〔10月〕トン汁会 など、ざっと数えてみてもこれだけの活動を行なっていました。

春闘決起ソフトボール大会やトン汁会では家族も参加し、組合員の奥さんやお子さん、ペットまでもが紹介されていました。また、新年会や総会後の宿泊を伴った懇親会では、OBの方にも声をかけ、交流をはかっていました。もちろん、これとは別に、毎月支店との間で事務折衝を行なっていましたし、定期的に地方経協も開催していました。また、組合の提案で、契約係社員だけの営業面・業務面のスキルアップ研修を、毎月、母店で開催していました。これだけ仲間と触れ合う機会、情報を交換できる機会があったのです。

それがまず分会再編が組織決定され、7つの分会がひとつに統合されたことで、この中のいくつかの行事・活動が消えていきました。また、組合の分裂で、これらの活動のほとんどが破壊されました。そして、企業合併が行なわれ、これらのすべての活動が消え去りました。それに伴って、あれだけ強固だったはずの「つながり」も見事にバラバラにされてしまいました。本当に「簡単にバラバラにされた」というのが実感です。

一度バラバラにされたつながりは決して元通りにはなりません。訴訟を起こし、この企業に引き続き残ろうとたたかっている私たちは、全国レベルで情報交換を密にし、より絆を強めようとしていますし、事実さまざまな要請行動や抗議行動などによって、人数は減ったものの新たな仲間「つながり」を強固にしています。他方、組合OBや、出身労組を問わず転進していった方々にとっては、つながりのなさ、情報のなさに不安を覚えるようです。また、新会社の代理店政策や、新会社の代理店への接し方には大いに不満があるようです。第3期募集で転進された、私たちの組合出身のOBの方たちには、カンパや、先日の「総行動」・「裁判傍聴」をはじめ、私たちのたたかいに絶大なる支援・手助けをして頂いていますし、関東信越分会で言ってもOBの活動家の皆さんには物心両面で支えられています。これからも、多くの情報を分かち合っていきたいと思いますし、必ずや勝利報告ができるよう、たたかいをすすめていきます。

バラバラにされてしまった出発点を考えると、どうしても「分会再編」に行き当たります。当時の表むきの理由は「財政」でしたが、私たちは「手弁当」になっても構

わないから分会の独自性を守りたいと訴えましたが分会再編は押し切られました。その背景には、当時の指導者に「全損保脱退」が視野に入っていたと思えてなりません。「全損保脱退」をすすめやすくするための、分会再編だったという全体像が浮かびあがってきます。新会社において、「全損保脱退」が社員制度を残すための第一条件だと迫られたのですが、結果は新会社誕生によって、制度も、横のつながりも、こっぴみじんに破壊されました。この社員制度をまもろうとした指導者の「大義」が、一枚も二枚も役者が上の東海経営によって良いように利用されたというのが、事の真相だと思います。そこに、東海経営のシナリオがあったことは容易に想像できます。

制度廃止までの一連の大きな「流れ」「動き」を見ても、旧指導者は「偶然」「運悪く」「たまたま」こうなってしまったと理解しているのでしょうか？守るべき大義がなくなってしまった現在、この真相が明かになれば良いと思って止みません。注目の「財産訴訟」証人調べ、第1ラウンドが始まります。